



# 同友しずおか

題字：塩崎敬子氏 三島支部



## 私の逸品

薪の香り纏うバリバリPizzaを生み出す石窯

### レストラン・エツナ

(榛原支部)

詳細はWEBで!

静岡同友会

検索

## 特集

### 中小企業問題全国研究集会in香川

## 人を生かす経営の実践で、地域の明るい未来を創りだそう

～21世紀型中小企業づくりで「すべての地域」に同友会理念を～

### 会員訪問記

伊丹 克明氏 (株)マルヨ・三島支部

阪西 敏治氏 (株)エーグッド・浜松支部

### シリーズ

経営指針 ～激動の時代の羅針盤～ 杉本 かつ行氏 (有)静岡木工・榛原支部

### その他 主な内容

経営指針を創る会 一泊発表会、支部だより、新入会員紹介、友達の輪、イントロin沼津

## 平成27年度 重点課題

- ① 経営指針を成文化し、社員との共有・実践で、時代に対応する強靱な企業づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章推進の運動を広げ、中小企業振興基本条例制定をめざします。
- ③ 元気な企業と地域をつくるため、会員増強目標1200名を早期に達成します。

## 地域の明るい未来を創るのは 人を生かす経営の「実践」

～第46回中小企業問題全国研究集会in香川に、静岡同友会44名が参加～



2月17～18日、「人を生かす経営の実践で、地域の明るい未来を創りだそう ～21世紀型中小企業づくりで『すべての地域』に同友会理念を～」をメインテーマに第46回中小企業問題全国研究集会（以下、全研）がJRホテルクレメント高松（香川県高松市）他にて開催され、47同友会・中同協から1,363名が集いました。



第2分科会で報告する  
杉村 征郎氏



第15分科会で報告する  
宇佐美 健介氏

1日目は「国際展開・第2創業・業種別戦略」「人を生かす経営の実践」「震災復興・経営環境の改善」などをテーマに19の分科会が行われ、会員の経営実践や研究者の報告から学び合いました。そのうち第2分科会では、杉村征郎氏（杉村精工(株)・志太支部）が「平和問題」をテーマに、第15分科会では宇佐美健介氏（(有)エージェントうさみ・富士宮支部）が「中小企業振興条例」をテーマに報告しました。

2日目の全体会では、香川同友会の川北哲代表理事によるあいさつに続き、中同協の鋤柄修会長が、人材不足・後継者不足の両側面から「長期の人事戦略を考えていく時期に差し掛かっている。研究集会の学びをより生かしていくために最後まで学び合おう」と述べました。

記念講演は、十河孝男氏（徳武産業(株)・香川同

友会）が「足元に笑顔をお届ける会社～奇跡を起こしたピンクの靴～」と題し報告。顧客に合わせた靴の製造・販売をする徳武産業(株)は経営において「損得ではなく善悪で判断する考え方」「地域との共生」を大切にしているとのこと。靴を履くことが生き甲斐に繋がった、という利用者の声は、参加者一同の涙を誘いました。



記念講演講師 十河 孝男氏

まとめに立った中同協の広浜泰久幹事長は、今回の全研での学びについて触れながら、1.平和が目指しているものとは何か確かな見識を持とう、2.同友会こそが健全な民意形成をしていく先頭に立とう、3.事実に対して常に「なぜ」と考え続けよう、と呼びかけました。

第12分科会 報告者：水戸谷 完爾氏  
(東日本機電開発(株)・岩手同友会)

### 社員一人ひとりの自主性が 自然に発揮できる組織づくり

～自分の頭で考え、誇りを持って自ら取り組む企業風土へ～



やさしい口調で、水戸谷完爾氏の報告が始まりました。水戸谷氏は工場長時代に、親会社の不渡りを受けて倒産寸前の会社を引き受けました。決算書の数字も解らないまま銀行に引き継ぎの挨拶に行

き、銀行員に意味も判らず叱られる最悪のスタート。またその当時、岩手同友会事務局があと数ヶ月で赤字になると判明。水戸谷氏は事務局長も引き受け、二足のわらじで会社と同友会の運営が始まりました。同友会の運営を快く思わない社員もいる中、社員の幸せを考え、就業規則の作成や組織運営を大企業にいた昔の経験から同様にすることを目指し、実践していきました。事務局長会議などの経験も仕事に生かし、会社は社員に任せて自主性を育む事で成長し、事務局も黒字化し、二足のわらじで水戸谷氏も社員も成長出来ました。現在は息子さんへの事業継承もでき、併せて、水戸谷氏が務めていた経営労働委員長も息子さんへと継承されました。これこそ、おもてには表さないが水戸谷氏の人を思う心と、経営に対する真摯な心の表れでしょう。私は、目指したい社長像を見付ける事が出来ました。また、バズセッションで社員の自主性を伸ばす為に話し合ったその内容を実践すべく、早く会社へ「ただいま」と帰りたくなりました。

野川 和三氏 (株野川商店・榛原支部)

**第15分科会** 報告者：宇佐美 健介氏  
(有エージェントうさみ・富士宮支部)

### 中小企業振興基本条例に故郷への思いをこめて 未来の子供たちに手渡す地域社会をつくらう

～同友会の三つ目の目的は、地方創生のカギとなる  
我々中小企業家の条例運動です！～



富士宮市において「中小企業振興基本条例」が制定されるまでの歴史や行政との関係、同友会がどのように関わってきたか、その運動の過程で生まれた「気づき」、その気づきを自社で抱えていた経営問題へ発展させた事が企業の成長にも繋がった事。また、企業や街が発展して行くには子供たちの存在が欠かせない事、子供たちが安心して暮らせる街、安心して帰ってくることを選択できる街を作るには？を解決に導くのがこの条例なんだと確信し実現に向け行動した先輩や同志の記録も含めた、宇佐美健介氏の力強い報告でした。

バズセッションでは、行政や各種団体との関わり方が非常に大切という事、まずは自ら行動する事、それを一步一步進めることが大事だという事が話し合われました。また、子供たちへの橋渡し

は勿論大切だが、同様に事業継承も大切な問題だという意見も出ました。しかし、これも条例を制定することで、中小企業が成長するチャンスが増え、行政もそれを根拠として対応しやすくなる事で、一歩進むのではないかと結論付けました。

条例の制定はゴールではなくスタートであり、制定しただけでは意味を成しません。どう生かすかが次の課題であり、中小企業と行政の思いが一致した時に確かな形になるでしょう。中小企業が成長することで地域が成長する、その道筋を作るために全国へ条例運動を進めようと言ひ、幕を閉じました。

池田 達哉氏 (有アイ・ネット静岡・富士宮支部)

### 第17分科会

パネリスト：安岡 浩史氏 (有安岡重機・高知同友会)、  
小松 哲也氏 (有安芸グループふぁーむ・高知同友会)、  
矢部 志保子氏 (FPおふいす Y.o.i・高知同友会)  
コーディネーター：川竹 大輔氏 (高知同友会専務理事)

### 地域企業を好循環に巻き込む同友会

～地域内の企業連携で過疎地の再生をはかる～



少子高齢化・人口減少が社会問題になる中、これからの地域づくり・支部活動の在り方についてのヒントを求めて、この分科会に参加しました。安芸市は317平方キロ、人口19,000人、森林面積87%。

安芸支部は2013年3月に誕生。会員数24名、平均社員数が7名、社員数5名以下が過半数。そうした中で、会員たちが地域資源である森林を木質バイオマスエネルギーとして活用開始した事例や、県内産の冬ナスや青のりを利用したアイスクリームの開発あるいは県内産農産物をレストランメニューに取り入れる取組。また保険事業を通じて資産運用で地域内の経済的な安心を提供するなどの地域資源を地域企業の連携で好循環に巻き込む事例発表がされました。人口規模も会員数規模も小さな安芸支部ではありますが、会員同士が同友会の3つの目的を理解し合い、経営指針の成文化を通じて地域内経済の循環を目指す姿は、支部活動のあり方や地方経済の安定を担う同友会活動のあり方として参考になりました。同友会の理念を学び、自己の経営理念を確立し、会員同士が切磋琢磨し合い経営を磨き育てることが地方創生の第1であり早道でもあるとの思いを強くしました。

堀池 勇氏 (司法書士堀池勇事務所・榛原支部)

# 支部だより

静岡例会

## 実感を報告！ 「中小企業振興基本条例」は必要だ！

2月9日(火) ベガサート 参加52名



松下 恵美子氏

松下恵美子氏（三協紙業(株)）による「中小企業振興基本条例」（以下、振興条例）についての報告が行なわれました。同友会に長く籍を置く人でも、振興条例はあまりなじみがないといえるでしょう。松下氏自身も、

もともとはあまり興味を持てなかったようです。しかし、学びを重ねるうちに“単なる文字の羅列が人々の姿に変わってきて、地域になくてはならないものだとの認識が得られた”“地域があってこそその会社であり、会社が変われば地域が変わる、地域が変われば会社が変わる”“「振興条例」は「経営理念」であり、ここに暮らす人々みんなが繋がる羅針盤である”“「振興条例」があれば行政側も動きやすくなり、地域での豊かな暮らしを実現するために、企業のみならず行政や地域住民も一体となっていくことが大事”と考え方に変化が訪れた事を熱く、キュートに語ってくれました。バズテーマは「地域振興のために、あなたは何をしたいですか？」でした。間口が広く、話が散漫になってしまう事を危惧しましたが、各テーブルとも話が弾んだ様子が伺えました。各会員の「振興条例」に対する興味がかき立てられ、良い例会ができました。

山村 直樹氏（山村社会保険労務士事務所・静岡支部）

富士宮例会

## 深まった、新たな仲間への理解

2月12日(金) 志ほ川 参加54名



芦澤 盛大氏



眞 邦幸氏



宮下 武氏

今月は、毎年恒例の「新入会員さん出番ですよ！」の第一弾で、芦澤 盛大氏（東海シーラン

ト工業(株)、眞 邦幸氏（株マコト電機）、宮下 武氏（株芙蓉堂）の3名が、自分という人間を同友会メンバーに理解してもらうために、精一杯発表しました。

3名とも、自身の会社に入社する前に、家業を継ぐべく他社で修行を積み、即戦力になるために努力し、技術・知識を身につけてきた背景があることが十分伝わってきました。その経験を生かし、現在、自社の経営に携わり活躍している様子を、発表の中に垣間見ることができました。普段はなかなか素顔を見ることができない中、今回の発表を通じ、各々の想いなど、理解を一層深めることができたと思います。

現在、様々な課題を抱えている中、日々その課題から目を背けず向き合い、同友会に入会したことを機に、同じ悩みをもつ経営者の仲間とひざを突き合わせ、同友会の3つの目的である「よい会社・よい経営者・よい経営環境」が実現できるよう、お互い切磋琢磨し、がんばりましょう。

鈴木 寿裕氏（株ファイン電子機器・富士宮支部）

榛原例会

## 中小企業振興基本条例って何？ 地域の未来を真剣に考えてみよう

2月16日(火) さざんか 参加33名



まず、知久正博氏（有知久太田会計事務所・県代表理事）が“中小企業振興条例の全国及び県下の条例の動きについて”を、堀池勇氏（司法書士堀池勇事務所・榛原支部長）が“条例についての榛原地区の情勢”を報告し、皆で現況を把握しました。続いて、今回の例会の目的である“条例に対する理解を深めること、あったら良いと考える振興策”を念頭に7グループに分かれてワークショップ形式で作業を行ないました。

その後、順番にグループ発表を行ないましたが、条例の持っている効力と効果、活用方法まで踏み

込んだ意見が出されました。また、規制緩和の必要性、補助金等の制度整備、人材育成等地元の中  
小企業が抱えている問題点も含めて具体的な要望  
する振興策が発表されました。

この例会を終えて、メンバーの条例に対する理  
解が深まった事は勿論ですが、具体的な振興策を  
考え提案していくのだと前向きな意見と考え方に  
変化し、受身ではなく、積極的で提案型の思考に  
なったと思います。条例の制定を事業の目標とし  
ながらも我々中小企業の考え方が変わる、意識の  
レベルアップ効果を期待する貴重な例会となりま  
した。

水野 勝也氏 (水野建設工業(株)・榛原支部)

沼津例会

## 経営指針は我が社の 行く道を照らすヘッドライト

2月17日(水) VILLA EFFE 参加40名



鈴木 一輝氏



高橋 典雅氏

沼津支部「経営指針を創る会」では今期、鈴木  
一輝氏 (株)フリースタイルデザインズ) と高橋典  
雅氏 (有)高橋キーコーナー) の2名が経営理念作  
成と理念の成文化に取り組み、その発表会を行  
いました。やりたい事が沢山あって絞り込めない鈴  
木氏には「一体あなたは何屋なんだ?」と厳しい  
指摘、考え込みすぎてなかなか前に進めない高橋  
氏には「大丈夫!間違っていない、まず一歩」と  
激励。どちらもそれぞれに悩み苦しみながら、理  
念の成文化に漕ぎ付きました。今回はその経緯や、  
創るにあたって初めて自身の会社の事を深く考え  
た事などを、懸命に語りました。

「経営指針は会社の羅針盤」と言いますが 奇  
しくも高橋氏が「経営指針は会社という車のヘッ  
ドライト」だと言いました。ヘッドライトが「我が  
社の行く道を照らしてくれる」それは大きな安  
心と、それを自身で作上げた事がかけがえのない  
自信になったのだと感じました。それを受けて  
のバズテーマは「貴方の会社経営は逆算ですか?

積算ですか?」。「ヘッドライト」を持つことは  
自社の目標を見定める事、それはとりもなおさず  
逆算の経営へと繋がるもの、という委員会の想  
いは、皆さんにも伝わった事と思います。気づきと  
学びの多い例会となりました。

水口 はるひ氏 (有)みずぐち・沼津支部)

浜松例会

## 進化のために自ら挑戦、 新しい波を作り出す!

2月17日(水) (株)エーグッド会議室 参加15名



今回は、志太支部副支部長である寺田卓正氏  
(株)ニューウェーブ) を呼びしでの「我が経営を  
語る」例会でした。冒頭は、現在の事業を立ち上  
げたきっかけや、業績が上がらない苦労の時期の  
お話をユーモア溢れる内容で報告。自らのモチ  
ベーションを頼りに事業運営を続ける中、「自己  
目標の達成」によるモチベーションの減退や、従  
業員の休職など様々な問題が発生したところで同  
友会と出会い、「経営指針を創る会」への参加に  
繋がっていったと言います。また、立派な経営指  
針を掲げ表面的に共有しても、従業員の人に本当  
に浸透しなければ「新規事業開拓」は円滑に進ま  
ず、そのために気が付けばワンマン経営になっ  
ていた、というお話は非常に共感できました。

我々経営者は、決して自分を主語に経営を行っ  
てはいけない。職員に対する感謝の気持ち、人財  
育成の大切さはどんな事業も関係なく共通した経  
営課題である。「お客様、従業員を幸せにするた  
めに経営をする」この目標は常に進化し、新しい  
波はここを起点に起こさなければいけないと改め  
て強く感じる事ができ、非常に多くのエネルギ  
ーを頂くことが出来ました。

尾平 幸宏氏 (株)ユーモア・浜松支部)

# 経営指針という羅針盤を手に、いざ、大海原へ！

今年度で12期を迎えた「経営指針を創る会」。その締めくくりとなる経営指針発表会が、2月27～28日の二日間をかけ、ニューウェルサンピア沼津にて行われました。9名の受講生が発表し、述べ20名のスタッフと共に最後の磨きをかけた指針書を携えて、いよいよ自社経営への実践に移ります。

## 1年の受講を振り返って

私は11年前に1期生として学んだものの実践できず、自分に自信を持てませんでした。一から鍛え直さないと今後の会社継続は出来ないと考えていました。

第12期での日々を思い出すと、毎回出される宿題が私には非常に難しかったです。外部環境、内部環境の分析等、1期の時よりもずっと細かく考えなくてはいけなかったからです。しかし、スタッフの皆さんが私の話を真摯に聞き、励まし、苦言、アドバイスを本当に沢山くれました。それを受けて私は自己肯定感を取り戻し、社長としての覚悟が固まっていきました。社長になって15年。随分と遠回りをしたものです。皆さんのおかげで何とか修了する事が出来た今「会社継続して行く為には有限である時間を大切に実践を重ねる事のみ」と、自分の中にある静かな闘志を感じています。強い気持ちを忘れずに、明るく、怠けず、息切れせぬよう長く長くやり続けます。

吉川 真実氏 (保坂シール印刷(株)・静岡支部)

福田克己氏 (㈱ホームプラザ大東・志太支部)に経営指針書を見せて頂いた時、その中身の濃さ、そこから見える経営者としての姿勢に衝撃を受け、



私も同友会で学ぼう、経営指針を創ろうと決意しました。その後、1年間の指針創りでは、スタッフの皆さんが他人事にもかかわらず真剣に、様々なアドバイスをくれました。その都度、自分では見えなかった・見ようとしなかった課題が明確になり、自社に戻っては検討、対処することができました。特に、社員と向き合う姿勢については、本当に気付かされました。

発表会は終わりましたが、これからが会社をつくる本番です。1年かけて創った指針書は、まだ納得できるものではありません。これからはスタッフとして創る会で学び、指針書を磨き上げ、良い会社を作っていきたいと思えます。

中島 篤氏 (㈲アイ・ランド・志太支部)



## 連載～激動の時代の羅針盤～ 経営指針 第57回

「いつ潰れてもおかしくない」  
八年前、初めて決算会議に参加した私が会計士さんから聞いた言葉。

とてもショックでした。なんでこんなになるまで教えてくれなかったんだ、とやりきれない気持ちになりました。と同時に、やるしかない、潰すわけにはいかない、と自分の中で覚悟が決まりました。

がむしやらに仕事をし、できる事は全て自分が中心となり先頭を切つてやりました。何とか軌道に乗ってきた4年前、代表に就任。しかし、売上のことや、戦略、効率化のことばかり考えていた自分には、会社を導くことが何なのかわかりませんでした。経営とは何なのか、どうしたらいいのか悩んでいた時に、経営理念を創れる会があると聞き、「これだつ」と即入会、そして創る会へ参加。

絶対いい会社にしてやるぞ、と意気込んで参加した私でしたが「何のために仕事をしているのか」を答えられず悩み、自分は何をやっているのかさえ分からなくなる日々もありました。答えを覚えてくれるのではなく、導いてくださるスタッフの皆さんの厳しくも温かいサポートに励まされ、生まれ変わったような気持ちで最後の発表会を迎えることができました。途中、挫折しそうなることもありましたが、最後まであきらめずに参加できたからこそ変わったと思います。

そして会社に持ち帰り初めてやる指針発表会。すべてを従業員にさらけ出し、自分の想いを伝えることができました。今年で三年目になります。今では従業員が積極的に参加し、経営理念に向けて前向きに取り組めるようになりました。経営は戦略や効率だけではダメで、しっかりとした想い「理念」が大事だと心から思えるようになりました。創る会に参加していなければ絶対にこう思うことはなかったと思います。ここでしか味わえない貴重な経験をさせていただきました。

素晴らしい会と、素晴らしい仲間とのご縁に感謝です。

経営指針を創る会第10期卒業生  
杉本 かつ行氏 (㈲静岡木工・榛原支部)

## 「安心・安全・健康」にこだわる三島市のお弁当屋

### (株)マルヨ

専務取締役 伊丹 克明氏 (三島支部)

事業内容：飲食店営業 (仕出し、産業給食、厨房受託、幼稚園弁当、学校給食)

設立：1982年10月

社員数：正規20名・パート80名

入会：2013年4月

所在地：三島市南二丁目633-1

自社HP：http://www.maruyo-mishima.com/

### 「頑固者」の似た者親子

創業者の伊丹秀之代表取締役社長と、会員の伊丹克明専務取締役を取材しました。社長の幼少期は、主人を亡くした母が女手ひとつで7人の子を育てた事や、時代背景も手伝って奔放に育てられ、お陰で自ら考えて行動する力が養われた事、その後脱サラをし、その時代には珍しい餃子屋を始めた事を話してくれました。夜が来なければいいと思うほど、働くのが楽しかったそうです。社長の当時の座右の銘は「本物は残る」。そんな父を持つ伊丹克明氏は、フードビジネスで修業を積んで平成11年に入社。情熱的な社長とは対照的に穏やかな印象を受けますが、お互い「頑固者」と形容される事の多い似たもの親子だそうです。

### 客観的根拠に基づく「安心・安全・健康」

(株)マルヨでは「安心・安全・健康」をスローガンに掲げ、衛生面では世界基準に合ったHACCP (危害分

析重要管理点監視方式)を導入しています。「健康・長寿は普通の願いですが、その基本は食べ物。汚染された物や好きな物ばかりを食べているといつのまにか病気が顔を出してくる。色々な種類の食材を組み込んだ献立とカロリー計算された量が



右から、伊丹秀之氏、伊丹克明氏、佐藤浩美氏

基本です。当社は内容素材にこだわり続けます。HACCPだから、安心・安全・健康なんです」と、原材料からお客様に消費される最終製品に至るまで、各調理工程で分析・管理する仕組みを導入している理由を伺い、改めて緊張感が走りました。

### いつまでも、食事の瞬間を「幸せ」に

高齢者の食事は「刻み食」という病人食のようなものが一般的ですが、(株)マルヨではプリンのような硬さに変更し、さらに普通の食事に見えるよう形をすべて整えています。諦めから感動、目で見ても楽しめるように、という思いやりは、経営する「お食事処 松韻」と「せせらぎ亭」の庭にも表れています。この庭造りは社長と専務が二人三脚で行い、四季折々の美しい演出をつくり出しています。最後に「これからも確かな品質と美味しさ、お客様との信用信頼を追及し続けていく」と語ってくれました。

取材・記事：佐藤 浩美氏 (有)佐藤葬具店・三島支部

撮影：秋田 輝儀氏 (有)システムエイド・三島支部

## 教育=おもてなし=コミュニケーション

### (株)エーグッド

代表取締役 阪西 敏治氏 (浜松支部)

事業内容：教育研修サービス、試験配信サービス、サーバー導入

設立：2011年3月

社員数：正規2名・パート6名

入会：2015年7月

所在地：浜松市中区平田町103

自社HP：http://www.a-good.co.jp

### 独自の目線での経営信念を貫く

阪西敏治氏はかつてPC教室の会社を経営し、IT系教育研修サービスに対するニーズに応じていました。時代が進み、IT基礎技術が社会に浸透すると、業界大手はどこも安売り合戦の経営方針を取るようになりました。この選択に疑問を抱いた阪西氏は、サービス内容の“幅”を売りにする経営を目指します。そして、特に得意分野を強化し専門的なエンジニアを育成するため、2011年に(株)エーグッドを立ち上げました。

### おもてなし精神に基づく本来の教育研修サービスのあり方

今、一般的なIT系研修サービスでは“技術者講師が専門知識を伝えること”がサービスと認識されています。しかし阪西氏は、お客さまである生徒さんを“教育する”とは、ただ専門性の高い知識を伝達する

のみではなく、短期間でも彼らのモチベーションを上げ、多くの気付き・学びを提供することであり、そのためには環境作りやコミュニケーションスキルが大切、と言います。また、おもてなし精神こそ教育だと語ります。その様な想いを社員に伝えたいと考えている時に同友会を知り、入会しました。「報酬以外に、社員に何を与えられるか」「社員を大事にするとは具体的に何をすることか」



阪西氏(中央)、須山氏(左)、杉山氏(右)

実践していくにはまず経営理念を明確にし、行動指針まで落とし込んだ経営をすることが必要と考えるに至った、と言います。

### “新しいエネルギー”が会社を次のステージへ

IT技術者育成のニーズは今後も拡大し、その機会に応じていくことができれば売上は上がっていくと見込まれています。その中で、会社に新しいエネルギーを吹き込めるような若い世代のマネージャー候補など、人材の育成が現在の必須課題となっています。完璧な事業はないかもしれないが100%に近づける会社を目指していきたい、と阪西氏は語ってくれました。

取材・記事：杉山 尚也氏 (株)ハーモニー・浜松支部

取材：須山 由佳子氏 (有)キャリア・アップ・浜松支部

## 新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1005名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者	氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
つちや えりこ 土屋恵理子	(株)スグナシステム システム開発(財務・販売・在庫管理等)、要員派遣(オペレーター・プログラマー・SE等)、運用管理、IT総合コンサルティングサービス	三島	石川英章	すずき ひろゆき 鈴木 広之	アコー創建(株) 解体業(解体工事)	富士	出口明利
おおいし まさかつ 大石 将勝	(株)大石設備 管工事業(水まわりの工事、エアコン工事、リフォーム工事、排水管洗浄)	沼津	藤原博美	ひらの せつこ 平野 節子	(株)ウィン 障害者福祉事業(障害者・障害児福祉事業)	富士	原田昌樹
さの かずや 佐野 一八	TandS 鉄工業(工作機械のフレーム、溶接構造物)	沼津	保科守彦	やの まさかず 矢野 雅一	(株)ウィン 障害者福祉事業(障害者・障害児福祉事業)	富士	原田昌樹
せい まき 清 マキ	(株)東部自動車学校 自動車学校	沼津	秋山和孝	かわじ ひろたか 川路 博隆	ミクトシステム(株) 電気工事業、空調工事業(一般電気工事、空調工事、家電工事、他関連工事)	静岡	岡望月省吾
せりざわ たかし 芹澤 孝至	(有)トーヨー工機製作所 機械加工(金属機械加工)	沼津	秋山和孝	やまもと けんじ 山本 健二	(有)日本スエーデン 金型製造、革製品製造販売、CAD・CAM事業、端末ケース(スエーデン鋼板型、革製品・自動裁断サービス)	静岡	岡西本幸一
はくば とみや 白馬 朋哉	(株)アジュール 小売業(生花)、コンサルタント業	沼津	藤原博美	おおつか なおき 大塚 直喜	(株)サン技研工業 プラスチック製品製造業、金型製造業(自動車部品、雑貨、家電製品等)	志太	宮本浩
ばんどう まこと 坂東 誠	坂東エネルギー・環境研究所 コンサルタント業(省エネルギーコンサルティング、電力事業、電力購買コンサルティング)	沼津	藤原博美	まつうら のりかず 松浦 令和	(株)松浦スチロール工業所 発泡スチロール製品の製造及び販売(発泡スチロール製品製造販売)	志太	知久正博
えんどう かずよ 遠藤 勝代	シー・アール・シー(株) 人材派遣業・有料職業紹介業(人材派遣・新規開拓、既存の労務管理、防災・避難用品販売)	富士	竹内昭八	むらまつ しほ 村松 繁	保険アイマーク(株) 生損保保険代理店(生保、損保)	志太	松葉秀介

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

## 祝 会勢1,000名達成！！

皆様の力添えを得まして、この度、今期中に会員1,000名を達成する事ができました。ありがとうございます。心から御礼申し上げます。この会員増強機運を大切に、まずは過去最高会勢1,033名突破に向かって会員増強していきましょう。今後ともよろしく願いいたします。

海野 敦 (海野サッシ商会・県組織委員会(しずおかプラス1)委員長)

## 友達の輪 第24回

沼津支部の兵藤さんからバトンを受け取りました、富士支部(有)富士清掃センターの大竹政彦です。宜しくお願いいたします。富士市を中心に燃えるゴミから産廃まで廃棄物の処分を業としている「ごみや」です。前回の兵藤さんとは「経営指針を創る会」で出会いました。それまで私はあまり人を信用せず、社員とも関わる事も少なく、自分の考えを話す事は皆無で、ただ漠然と業務をこなしているだけで、今思うと会社の後継者としては最悪でした。が、同友会に入りさらに創る会に参加して、色々な事を見つめ直すいい機会をいただきました。当時は経営状態の悪化やその後の先代社長の急逝等々沢山の問題を抱え、会社を閉めることも頭の隅で考える程悩んでおりました。そこから何とか建て直せたのも、同友会の仲間時に厳しくまた、時に優しく助言をいただいたおかげだと思います。兵藤さんに絶賛いただいた「綺麗なごみや」の言葉も、創る会のスタッフ・同期生の協力のおかげで生まれた理念です。

私は、同友会で沢山の仲間という貴重な財産をもらいました。今後も同友会と関わりながら、仲間(友達の輪)を増やしていけたらと思います。今回は、創る会の同期生と共に悩み赤裸々に語り合った仲間の一人で、今でも会う度に刺激とパワーをもらっております大川隆久さん(フエタ工業(有)・御殿場支部)にバトンを渡したいと思います。

大竹 政彦氏 (有)富士清掃センター・富士支部



## 同友会イントロセミナー IN 沼津

2月23日(火) 参加41名

冒頭、井上斉氏(ワシロック工業(株)・県副代表理事)が自身の体験を元に、同友会の歴史や理念について説明。続いて梶川久美子氏(サツマ電機(株)・沼津支部)が、会で学び自社で実践した事例を報告し、「同友会では自らテーマを持って活動に臨み、積極的に学ぼうとする姿勢が大事」と語りました。バズセッションでは、各々が何のために経営をしているかを語り、地域社会と経営との繋がりについて認識を深めました。5名の入会に繋がった事は、このセミナーが良いものだった事の現れと言えるでしょう。



梶川 久美子氏

### 同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。